

## 第 104 回大腸癌研究会 病理委員会 議事録

日時：令和 8 年 1 月 22 日（木）午前 10：00～11：30

場所：浜松町コンベンションホール 5 階 第 1-B 会場（メインホール B）

議長：菅井 有 出席者（敬称略）：新井富生、市川一仁、上杉憲幸、河内 洋、小嶋基寛、岸本光夫、菅井有、杉本亮、牛久哲男、八尾隆史、加藤洋、石黒信吾、斎藤彰一、坂本直也、羽賀敏博、下田将之、落合淳志、重松桃子、門松雄一朗、笹原有紀子、森永友紀子、棚橋明央、岩谷舞、村田幸平、山口倫、塩田哲也、下出哲弘、堀口慎一郎、中野薫、谷優佑、藤島史喜、上野秀樹、宮沢善夫、岩屋啓一、近藤雄一郎、白浜孝也、村上圭吾、伊藤一洋、関根茂樹、五味川龍、古久保宙希、加藤健、市原真、岡本耕一、佐藤直実、九嶋亮治、佐村博範、小野雅真、中川義仁、道田知樹（計 51 名）

### 討議内容

#### 1. 神経内分泌腫瘍の組織分類および T 分類について（河内）

内分泌腫瘍の記載については、Carcinoid tumor/NET, neuroendocrine carcinoma/NEC を併記する事になった。最終案として承認された。

#### 2. 洗浄細胞診の取扱いについて（上野、新井、菅井）

新井先生から、洗浄細胞診における異型細胞の取扱いに関する記載案が提示された。最終的に、胃癌取扱い規約との整合性を踏まえ、大腸癌取扱い規約においてもクラス分類を採用し、クラス V のみを Cy1 とする方針とした。

#### 3. 取扱い規約に掲載する虫垂の項について（岸本、八尾、新井、村田）

八尾先生から改訂案が提示され、粘液性腫瘍において粘膜筋板の有無で mucinous adenoma と LAMN/HAMN を区別する点、粘液性腫瘍のグレード分類の記載、ならびに虫垂生検の取扱いについて議論が行われた。本件については継続審議とし、次回委員会（7 月）までに間に合うように申し送りされた。

#### 4. 規約改定委員会から病理委員会への審議依頼事項（上野）

規約改定委員会から病理委員会への審議依頼事項について、上野先生より説明があった。組織型の記載の改定案について説明があった（現行では病変内の組織型を優勢像に基づき等号/不等号を用いて記載しているが、今後は対物 40 倍の視野を目安とした領域の組織型を記載する。ならびに、最低分化度は予後の分別が高いとされ、今後の規約に反映する旨の提案があった）。文言に関しては継続審議とする。

#### 5. 97 回～104 回 病理委員会の総括（菅井）

第 97 回～第 104 回病理委員会において決定された 6 項目について、総括が行われ、これらの内容は次回の大腸癌取扱い規約改訂に反映される方針が示された。

#### 6. 新病理委員長について（菅井）

次期病理委員長はがん研有明病院の河内洋先生が選出され、挨拶があった。副委員長には京都府立医科大学の小嶋基寛先生が選出された。

#### 7. 菅井病理委員長のお言葉

菅井病理委員長から病理委員ならびに参加者に対し、これまでの協力への感謝の言葉が述べられた。  
(文責 岩手医科大学 杉本亮)